

3. イノシシのため池への侵入抑制と被害を低減させる簡易な対策

現地調査の結果、管理が低調なため池でイノシシの掘り起こし被害が多く発生しており、ため池を拠点に周辺の農地や農業用施設にも被害を及ぼしていることが判明しました。

こうした被害への対策としては、ため池の周囲全体を強固な防獣柵で囲うことが最善ですが、設置に大きなコストと労力が必要で、機能維持のためには頻繁な点検と補修が不可欠となります。

そこで本冊子では、イノシシの習性や被害の特性をもとに、イノシシの侵入を 100% 防ぐことはできなくても、侵入を減らし、被害を低減させる簡易な対策をご紹介します。

(1) 定期的な草刈り

用心深いイノシシは、開けた場所に体をさらすことを極端に嫌います。彼らにとっては、身を隠し、安心して活動できる場所があるか否かは、生活の場所としての重要な要素です。

このため堤体では、草の伸び具合を見ながら、年 1～3 回程度草刈りを行うことが、イノシシの活動を抑制する非常に有効な対策となります。



草刈り前（草に隠れて活発に活動）



草刈り後

草刈りは、堤上部だけでなく法面全体も刈ることが理想的です。しかしながら、大きなため池では、管理面積が多大となり、年数回とはいえ草刈りは現実的に難しい場合があります。そのような場合は、イノシシの性質に基づいた**部分的な草刈り**が効果的です。

<部分的な草刈りの事例>

① 対策の内容

堤体の山際、獣道付近、よく営巣する場所などに限定して、定期的に小面積を刈り払い、その場の開放空間を維持する。

② 労力

写真の事例：山際の 5×3m を手刈り、1 人×30 分

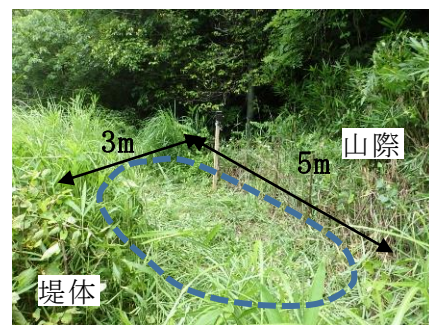
③ 対策の効果

山から堤体への侵入経路が開放的になり、イノシシの出没が大幅に減少し、付近の掘り起こしが無くなった。

例年、堤体上に営巣していたが、対策年は営巣が放棄された。

④ 課題・注意点

定期的（できれば月 1 回程度）に点検し、伸びた分だけ草刈りを行う（1 人×10 分程度）。



堤体山際に限定した草刈り

(2) 水路法面の保護

イノシシは、構造物に沿って掘り進む習性があるので、水路や護岸沿いの法面では、掘り起こしが頻発し、土砂を水路に落したり、水路壁を壊すなどの被害が出ています。

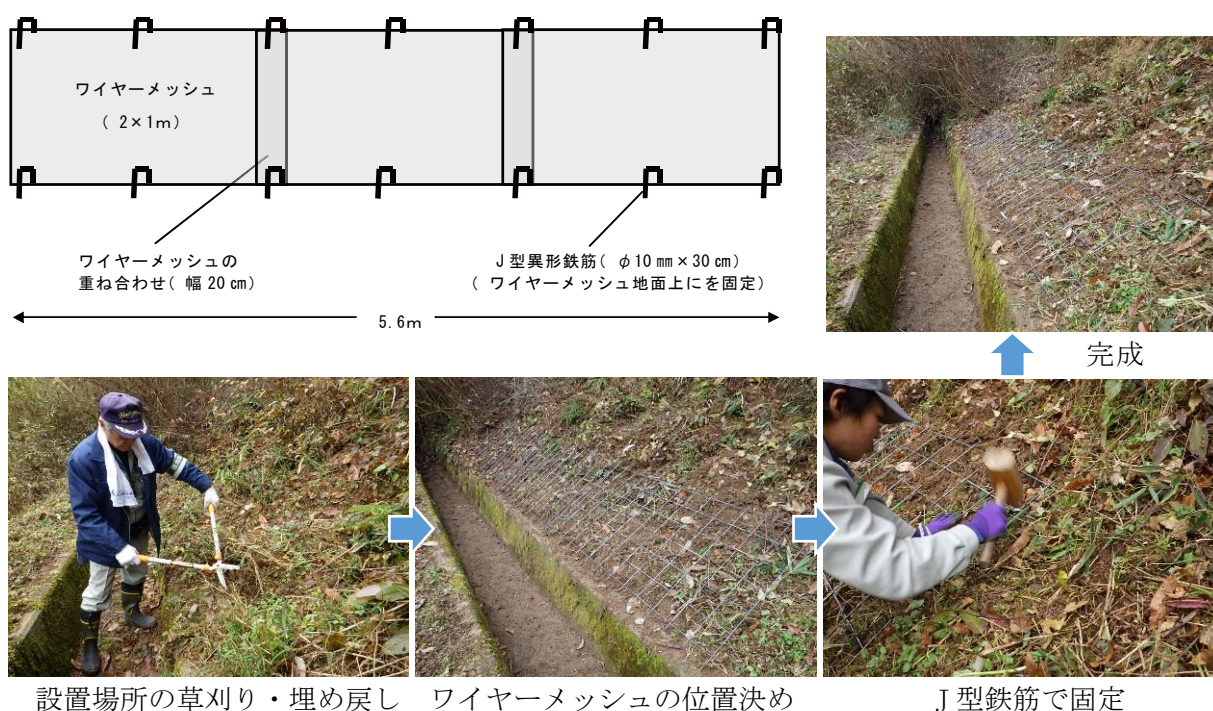
これらの被害に対しては、ワイヤーメッシュで法面をカバーする**掘り起こし防止対策**が有効で、イノシシが上に乗ると、足場が不安定で嫌がるといった効果も期待できます。

<掘り起こし防止対策の事例>

① 対策の内容

イノシシに掘られやすい人工構造物沿いの地面を、ワイヤーメッシュで覆う。

よく掘られる、堤体の内法や外法下部の護岸、用水路、余水吐の側面を対象とする。



② 労力・費用

写真の事例：長さ約 6m、2 人×15 分（設置場所の草刈り：2 人×15 分）

材料費：

資材	仕様等	単価	数量	資材費
ワイヤーメッシュ	線径5mm、サイズ2×1m、目合15cm、重量4.3kg	¥398	3	¥1,194
J型異形鉄筋 (異形ロープ止め)	線径10mm、長さ30cm、重量0.2kg	¥316	14	¥4,424
資材費(税抜き)合計				¥5,618

単価には地域差があります。

③ 対策の効果

設置後、イノシシの出没が大幅に減少し、法面の掘り起こしが無くなった。

掘った土砂が落ちて水路を埋めていたが、これが解消され、通水機能が維持された。

④ 課題・注意点

設置前に掘り跡を埋め戻す（穴を埋めないと水が溜まって崩れやすいため）。

草刈りに大きな支障は無いが、ワイヤーメッシュの損傷や刃こぼれに留意する。

(3) 主要な獣道の遮断

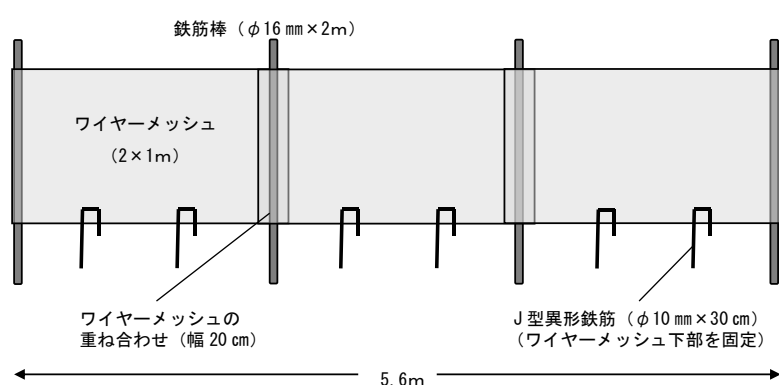
草が倒され、地面が踏み固まっている獣道は、イノシシがよく利用している堤体への主要な侵入経路になっています。そうした獣道を遮断するように、柵を設置します。

下記の設置事例は、余水吐など、ため池に付随する水路構造物をイノシシの侵入**防止**対策にも生かす設置方法です。この対策は、イノシシの堤体への侵入を完全に阻止するものではありませんが、省力でイノシシ被害を低減させる効果的な**侵入防止対策**となります。

<侵入防止対策の事例>

① 対策の内容

イノシシがよく利用する獣道をターゲットとし、ワイヤーメッシュ柵で経路を遮断する。



対策前



完成 (対策後)



支柱の打ち込み



ワイヤーメッシュの仮設
(重ね合わせ幅 20cm)



結束バンドで固定

② 労力・費用

写真の事例：長さ約 6m、3 人×30 分

材料費：

資材	仕様等	単価	数量	資材費
ワイヤーメッシュ	線径5mm、サイズ2×1m、目合15cm、重量4.3kg	¥398	3	¥1,194
鉄筋棒(支柱用)	線径16mm、長さ2m、重量3.1kg	¥698	4	¥2,792
J型異形鉄筋(異形ロープ止め)	線径10mm、長さ30cm、重量0.2kg	¥316	6	¥1,896
結束バンド	長さ20mm、耐候性、100本入り	¥712	1	¥712
資材費(税抜き)合計				¥6,594

単価には地域差があります。

③ 対策の効果

設置後、柵に近づくイノシシは見られなくなった。また、堤体での出没も減少し、掘り起こし被害は、大幅に減少した。

堤体によほど魅力的な誘引要因が無い限り、柵を突破してまで入ろうとはしない。

④ 課題・注意点

設置後、他の経路からよく侵入するようになった場合は、必要に応じて追加設置する。

(4) 水辺の活動場所の削減

ため池が満水状態の場合、岸辺ががけ状に落ち込んでいて、イノシシが水辺を利用しにくい状態ですが、水位が下がったときには水際に湿った平らな陸地が出現し、水飲み場やヌタ場としての利用が頻発化します。

同様に、水位が高い状態では堤体に近づけないため池でも、水位が低下して水際に陸地が現れると、陸化した部分を伝ってイノシシは易々と侵入することができ、常習的に被害を与えます。

こうしたイノシシの被害を抑制するために、可能であれば、一定程度水位を高く維持して、水際に平らな陸地ができないように、また侵入ルートをつくらないようにすることが有効です。

